

2022年7月5日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

auじぶん銀行 日本サービス業PMI®

及び、auじぶん銀行 日本複合PMI®

サービス業の事業活動、
2013年10月以来のペースで拡大

主な動向

事業活動は調査史上3番目の速さで増加

購買価格のインフレ率、調査史上最高を更新

企業の見通し、調査史上2番目の高さに回復

データ収集期間：2022年6月13～27日

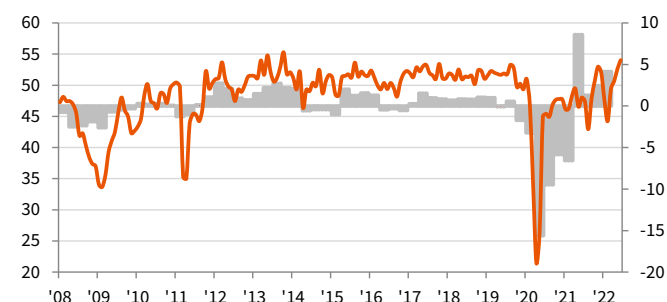
日本のサービス業は6月、事業活動が3か月連続で回復したことを報告。新型コロナにかかる国内の制限措置解除を受けて、上昇ペースは全体的に堅調で、2013年10月以来最大だった。また、インフレ圧力はさらに高まり、購買価格は調査史上記録的な上昇率となり、サービス単価の上昇を招いた。しかし、サービス業は今後一年間にわたる事業活動の見通しについて強気の姿勢をみせ、景況感の上昇は調査史上2番目を記録した。

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバルがサービス業約400社からの調査回答を基にまとめたものである。対象セクターには、消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれる。

主要指標はサービス業事業活動指数で、事業活動量が前月比でどう変化したかを示す。数値が50を超えれば全体として前月比で増加したことを、50を割り込めば減少したことを意味する。

6月の日本のサービス業の季節調整済み事業活動指数は、5月の52.6から54.0へ上昇。事業活動は、2013年10月以来最も速いペースで増加した。サービス業は、新型コロナにかかる国内制限措置の緩和が事業活動増加につながったことを指摘した。

最新の調査期間では、新規事業も2か月連続で回復した。成長率は5月より緩やかになったものの、顧客センチメントの回復と、

サービス業事業活動指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加家計サービス支出
前年比(%)

出典：auじぶん銀行、S&Pグローバル・インク、内閣府

サービス業の制限措置緩和を受け、堅調な伸びだった。しかし、サービス業の海外需要は顕著なペースで減少、2か月連続に及ぶ。

また、日本のサービス業では2か月連続で平均間接費上昇が過去最高となった。購買価格の急上昇は、膨れ上がる原材料と燃料のコストが主要因に挙げられた。購買コストの上昇が日本のサービス業のサービス単価を、2019年10月以来最大のペースで引き上げることとなった。

雇用者数は第2四半期末時点で、5か月連続増加。企業は、需要回復に備えて欠員を補充し、労働力の増強に努めたことを雇用者数増加の要因に挙げた。雇用増加率は小幅で、3か月間で最も低い水準だった。新規事業が上昇した結果、企業らは生産能力への圧力増加に直面。2017年8月以来最大の受注残上昇率がこれを裏付けている。

サービス業は、今後一年間で事業活動が増加するだろうと楽観的な見方を強めており、景況感は5月から上昇。2021年11月の水準に次ぐ、調査期間で2番目に高い指数を記録した。企業は、国内の制限措置が解除されたことで、需要が増加を続けるだろうとの期待をコメントに寄せた。海外の新型コロナにかかる制限措置緩和も、サービス業の需要回復に寄与することが期待される。

auじぶん銀行 日本複合PMI®

民間企業の生産高増加率、昨年11月以来最大

製造業とサービス業の複合生産高を測るauじぶん銀行日本複合*PMI生産高指数は、6月に53.0を記録。5月の52.3から上昇し、7か月間で最大の生産高回復を示した。日本のサービス業では、事業活動が過去8年半で最大のペースで上昇。しかし、製造業の生産高成長は4か月間で最も緩やかになった。

6月の複合新規受注数指数は、緩やかなペースで上昇した。これは、サービス業で2か月連続に及び上昇を記録したことによるが、製造業の需要は広く停滞をみせた。新規受注数は軟調な増加にもかかわらず、受注残は調査史上最大の上昇率を記録した。

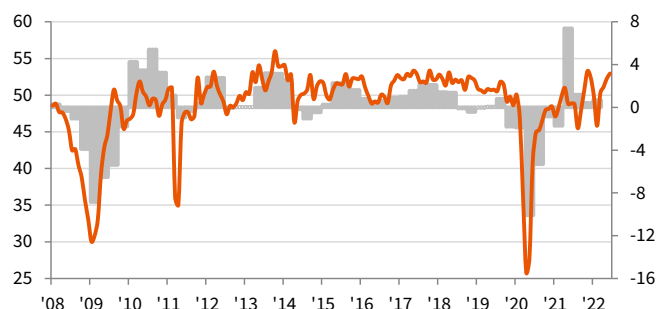
民間企業の雇用者数は、17か月連続の増加を記録。雇用増加はわずかで、2月以来最も低い伸びとなった。製造業では雇用者数の成長がさらに鈍化したことを指摘。サービス業では、雇用者数増加のペースが最も低調だった。

原材料不足とサプライチェーンの混乱が広く報告される中、民間企業は6月の平均間接費に記録的に上昇したことを指摘。これが、日本の製品・サービスの販売価格の記録的上昇につながった。

* 複合指数は製造業とサービス業それぞれの指数を加重平均したものである。加重値は、GDP公式データに基づく製造業とサービス業の相対的規模を反映している。日本複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業活動指数の加重平均である。

複合生産高指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加

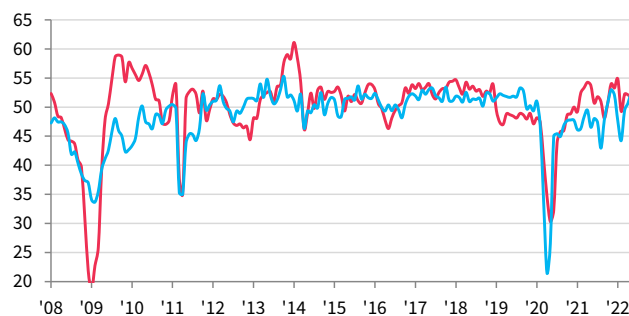
GDP
前年比(%)

出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル・インク、内閣府

製造業生産高指数

サービス業事業活動指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル・インク

コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Usamah Bhattiによる最新調査結果についてのコメント

「第2四半期末には日本のサービス業は事業活動が大きく増加し、過去8年半で伸びが最大のペースだったことを報告。新型コロナウイルスにかかる国内の制限措置解除が影響した。新規事業も力強いペースで増加した。

サービス業に対する高まる需要と、原材料価格や燃料費の高騰を受けて、平均間接費はさらに増加。記録的ペース

で上昇をみせた。これにより、サービス単価は2019年10月以来最速のペースで上昇した。サービス業は、今後の事業活動について強気の姿勢を強め、景況感は調査史上2番目に高い水準に上昇した。

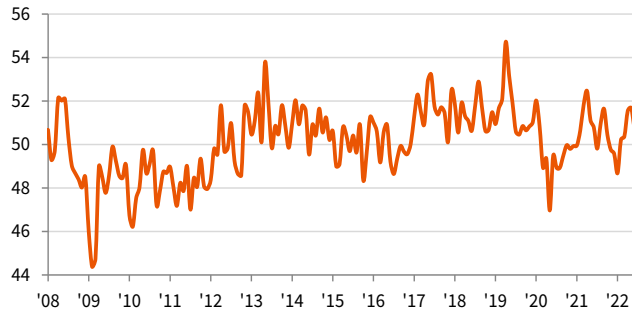
第2四半期末の民間企業活動は、全体で昨年11月以来最も速いペースで増加した。製造業の生産高成長は4か月連続に及ぶが、伸び率は最も緩やかであり、増加の主な牽引要因はサービス業の事業活動回復である。

燃料・エネルギーを中心とした原材料不足や価格高騰の中、購買価格と販売単価両方が最大の上昇率を記録し、強まる価格圧力への懸念が依然として残る。

今後一年間の見通しについて、日本のサービス業から6月、調査史上2番目に高い景況感が報告された。企業らは、新型コロナウイルスにかかる制限措置が解除されたことで、力強い需要の回復を期待している。これを踏まえ、S&Pグローバルは日本の経済が2022年に2%成長するだろうと予測している。」

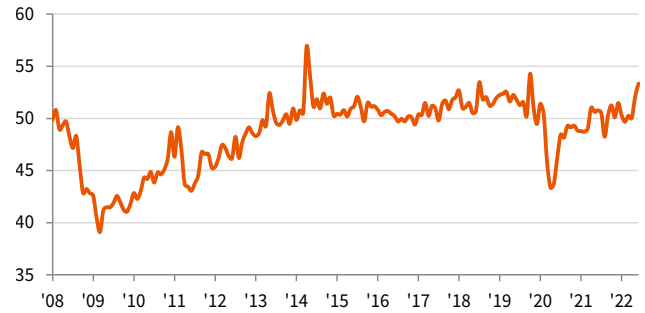
サービス業雇用指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加



サービス単価指数

季節調整済み、>50 = 前月比で上昇



お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行
Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp

Usamah Bhatti
エコノミスト
S&Pグローバル・マーケット・
インテリジェンス
電話: +44 134 432 8370
usamah.bhatti@spglobal.com

Joanna Vickers
コーポレートコミュニケーション
S&Pグローバル・インク
電話: +44 207 260 2234
joanna.vickers@spglobal.com

調査方法

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバル・インクがサービス業約400社からの調査回答をもとにまとめています。対象セクターには消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれます。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数はサービス業事業活動指数です。これは、事業活動量の前月比での変化についての回答から算出する拡散指数(ディフュージョン・インデックス)です。サービス業事業活動指数は製造業の生産高指数に匹敵します。「サービス業PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業事業活動指数の加重平均です。加重値は、GDP公式データに従った製造業とサービス業の相対的規模を反映したもものとなっています。複合生産高指数は「複合PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調査要因は必要に応じ修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2022年6月のデータ収集期間: 2022年6月13~27日。

PMI(購買担当者指数)

購買担当者指数™(PMI®)調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、ihsmarkit.com/products/pmi.htmlをご覧ください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱落(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

PMI®

by S&P Global

© 2022 S&P Global

auじぶん銀行日本PMIのスポンサーはauじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専業銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

S&Pグローバル・インクについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモディ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク、分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: www.spglobal.com

S&Pグローバル・インクのプレスリリースを受け取りたくない場合は、katherine.smith@spglobal.comへお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。